

3 民間児童育成会に関する意見

No	意見の概要	札幌市の考え方
176	障害があり特学に通っている。放課後は民間の学童保育所で障害のない子どもと一緒に遊んでいる。とても貴重な場なのに保護者会費が高く市の助成金だけではやっていけない。児童クラブとの助成の差は納得できない。親や子の選択肢を増やすためにも市の助成は公平であるべき。	本市では、放課後の子どもの居場所における地域格差を解消するため、将来的にすべての小学校区に放課後の居場所を作ることを目標としており、現在は、順次ミニ児童会館の整備を進めています。また、民間児童育成会に対しては、多様な市民ニーズに応えるためにも、適正で安定した助成を継続していきたいと考えています。
177	放課後に低学年の子どもを1人で児童会館へ通わせるのはとても不安との意見が多数ある。安心して仕事ができる民間の学童保育所がたくさんできるといいと思う。	地域における子どもの放課後の安全確保については、保護者、地域及び行政が一体となって取り組む課題であると認識しています。総合的な放課後対策を実施する上で、引き続き関係者と連携を図りながら、安全で安心な居場所づくりに努めていきたいと考えています。
178	学童保育所は子育てを一緒に考え親の相談にも向き合ってくれる。全児童と留守家庭児童はまったく条件が違うので一緒ににはできないことをわかってほしい。	本市の総合的な放課後対策においては、児童クラブに登録している子どもを区別せず、一般利用の子どもとの積極的な交流を通して、健全育成を図ることを基本としています。 また、児童会館では定期的な懇談や日常的な情報交換を実施しており、職員と保護者が意見交換できる雰囲気づくりや、保護者同士の交流に配慮するよう努めています。
179	留守家庭の子どもと一般利用の子どもを一体的に育成することで、留守家庭の子どもの「生活の場」が損なわれるのではないかと。毎日継続的に「ただいま」と帰る第2の『家』が必要。民間活力の賜物である学童保育を是非守っていただきたい。	
180	児童会館・ミニ児童会館・児童クラブにおいて、遊びと生活の場があるのか、また、本当に子どもたちが望んでいる場所であるか疑問であり、札幌市の方針を見直してほしい。	本市の総合的な放課後対策においては、児童クラブに登録している子どもも一般利用の子どもも、分け隔てない指導を行っているところです。なお、児童クラブに登録している子どもに対しては一定の配慮を行うことで、「生活の場」としての機能が十分確保されるよう努めています。
181	子どもの状況は環境によりそれぞれであり、子どもの生活を長期的に見て、単なる「居場所」ではなく「生活する場所」として考えてほしい。児童クラブで良いかを見直してほしい。	
182	「場所」を提供する児童会館だけでは働く親にとっては不安。心の問題や子どもの孤独などの問題が多い今こそ子どもを見守る大人の目が必要。	
183	高学年にも保育が必要。縦横のつながりがよく、保育計画が整った民間学童保育所存続のために助成金削減はしないほしい。	
184	子どもが安心して放課後を過ごせる民間の学童保育は親にとっても貴重な場であり、是非助成をしてほしい。	
185	民間学童保育所への助成を増やしてほしい。高学年になって留守番ができて大人も必要。何かあったときに行ける居場所があると安心して働ける。	
186	民間学童保育所への助成金を増やして欲しい。細かい配慮があり、子ども同士で育ち合える環境である。	
187	民間の学童保育所への助成金を増やして欲しい、指導員が子どもたち1人1人のことを理解した上で関わってくれる。	
188	民間の学童保育への助成金を増やして欲しい。児童会館とは違い、子どもたちの個性を理解してくれている。	民間児童育成会については、本市の放課後事業健全育成事業において、一定の役割を果たしていることから、助成という形式で運営の支援を行っています。現在の札幌市を取り巻く財政状況は非常に厳しいものがありますが、この助成金については、今後も適正かつ安定して継続することができるよう努めます。
189	子どもと向き合ってくれる指導員がいる民間学童保育所への助成金を減らさないほしい。	
190	民間学童保育所は、おやつがあり同じ大人や仲間と一緒に思い切り外で遊べるのがよい。助成金は削減しないでほしい。	
191	民間学童保育所の指導員の生活が安定し、良い指導が受けられるよう助成金削減に反対する。	
192	個性を尊重し、自主性を大事にして子どもの成長に本心から付き合ってくれることは非常に大事。社会性を育む場でもある学童保育所の存続を願う。	

№	意見の概要	札幌市の考え方
193	民間学童保育所への助成を減らさないでほしい。高学年になっても、大人の目があるところで安定して放課後生活ができるよう、公的援助をお願いしたい。	民間児童育成会については、本市の放課後事業健全育成事業において、一定の役割を果たしていることから、助成という形式で運営の支援を行っています。現在の札幌市を取り巻く財政状況は非常に厳しいものがありますが、この助成金については、今後も適正かつ安定して継続することができるよう努めます。
194	指導員の共済費は35万円から0に、通勤手当も月3,500円に減額された。指導員の仕事への認識や理解が低いのが残念。民間学童保育への助成金を減らさないでほしい。	
195	1、2年後には児童デイケアの対象が入学前の子どもに移行する。軽度発達障がいの子どもたちが放課後、対人関係を形成するためにも、個々人に対応してくれる民間学童を児童デイケアに替わる支援として位置づけることが重要。	
196	空き教室のない小学校の増改築を全額負担してミニ児童クラブを開設するより、民間に学童保育所新設のための補助金プランを提示し、官民一体の運営にしたほうがいい。	
197	例え無料で教室を開放してくれるミニ児童会館があったとしても、子どもを預けようとは思わない。外にも遊びに行けずに、ただ時間をつぶすだけが子どもにとってどれだけストレスか。児童会館にないことが学童保育にはある。そこは生活の場であり社会の縮図だ。無料がすべて良いと考えるのは早急すぎる。今ある学童保育がなくならないように充実することが先決。	
198	民間の育成会の助成を削らないでほしい。指導員の生活を保障できるだけの額に。障がい児への配慮をしっかりとしてほしい。すべての子どもたちの放課後を保障してほしい。	
199	わが子は学童に行っています。子どもは元気に遊び、安心して仕事ができる。しかし、市の助成金が減り負担が増えている。学童の良さと厳しさを理解してほしい。	
200	子どもを児童会館に入れるか学童保育に入れるか悩んだが、活動内容や指導員の温かみを知り学童保育に入所させても満足している。助成金を減らさず学童保育を守ってほしい。	
201	子どもは国の宝。子どもにかけるお金は無駄にできない。指導員の待遇改善につながる助成金の増額を求める。	
202	民間の指導員を25年間している。民間の活動は留守家庭児童にはなくてはならないもの。今回の助成金削減で閉所に追い込まれる民間学童保育が増える。民間への助成金をもっと増やしてほしい。	
203	安心して生活できる学童保育をこれからも運営していくために、助成金の減額をしない、指導員の身分保証につながる共済費の確保、家賃の補助、4年生以上を助成対象とする等を望む。このままでは学童保育所の存続が危ぶまれる。国の方針のほうが進んでいるのではないか。	
204	放課後、学童保育で遊び勉強しながら過ごすことは、親にとって安心して預けられる場所。子どもが6年間このような施設で生活できることを願う。	
205	放課後の子どもの居場所を考えれば児童会館やミニ児童会館は必要だが、わが子は民間学童に通わせている。プランの中に民間を支援する内容を盛り込んでほしい。ミニ児の新設等で民間の学童がつぶれ生活の場を失っている子どももいる。	
206	二人の子どもが6年間学童保育所にお世話になり、安心して働くことができた。学童保育所に通わせて良かったと思う。学童保育所は第二の我が家です。児童会館・ミニ児童会館の充実とともに民間保育所に対しても補助金の増額または廃所にならない配慮を望む。	
207	娘が民間の育成会で放課後を過ごしている。お金がかかることで多少迷いもあったが、保育の仕方に共感し安心して任せている。指導員に色々聞けたり相談もできるので助かる。お金には代えられないものを得られる場所だ。	

№	意見の概要	札幌市の考え方
208	民間の児童育成会に世話になっている。児童会館は無料だが子どもの居場所としては不満。たくさんの兄弟、保護者、指導員が大きな家族のように思えて心強い。15,000円は厳しいけど、お金の代えられない安心・安全がある。	
209	児童会館に預けようと思ったが、放ったらかしのイメージが強く、アットホームな学童保育を選んだ。色々なことにチャレンジさせ、上の子が下の子の面倒を見るスタイル。児童会館にはない良さがたくさんある。子どもを安心して預けられる場所をもっと増やすべき。男女平等であるという事をもっと大切にしてもらいたい。	
210	長男が民間学童保育所に通っているが、縦や横のつながりができて本人のためにも良いと思う。児童会館と違い高学年になっても通うことができ親としても安心。児童会館（ミニ児）ばかりでなく民間学童の良さをもっと理解してもらいたい。	
211	子どもを民間学童保育所に通わせている。児童会館の内容が安心できるものではなかった。無料だからしょうがないというのは大人の意見。子どもが子どもらしく過ごすことができるような場所を作ってほしい。全児童対策も必要だが、ただ入れるワケだけではプランに掲げる内容にはならないのでは。民間学童保育の助成金を減らさないで。	民間児童育成会については、本市の放課後事業健全育成事業において、一定の役割を果たしていることから、助成という形式で運営の支援を行っています。現在の札幌市を取り巻く財政状況は非常に厳しいものがありますが、この助成金については、今後も適正かつ安定して継続することができるよう努めます。
212	民間の学童保育は児童会館と違い専任の指導員が子どもをしっかり見ている。しかし助成金がカットされ父母の負担となっている。子どもの成長を考えるとこのような施設が重要なのに市は何を考えているのか。次の世代の親も安心して働けるよう民間への助成金を充実してほしい。	
213	19時まで延長可能な民間学童保育所には助けられています。異年齢の友人もでき、親同士のつながりもできる。	
214	民間学童保育所は、19時まで預かってくれ、学校が終わってそのまま行ってくれるので安心して仕事ができる。	
215	民間学童保育所は、休校日や学級閉鎖にも対応してくれ、帰宅後の家庭に代わる場として子どもたち1人1人の様子にも細かく対応してくれ助かる。必要な施設として助成金を増やしてほしい。	
216	民間学童保育所は、おやつが出てありがたい。指導員がそばにいてくれて、親だけではわからない子どもの様子や気持ちを理解してくれ、子どもも安心・信頼している。	
217	ミニ児童会館にはない指導員の子どもに対する保育指導内容等が必要。民間学童保育では縦割り保育が生きている。共働き家庭にとって学童はなくてはならないもの。	
218	民間学童保育所は、専任の指導員がいて子どもが心の面でも安定できる居場所です。	子どもの情緒の安定に配慮した指導員の配置は、放課後児童健全育成事業を実施する上で必要であると考えており、児童会館においても、児童クラブに登録している子どもに係わる業務を主に担当する指導員を配置しているところです。
219	児童会館を見学し話を聞いたが心もとない部分が多々あり不安を感じた。子どもへの関わりが強いことや、地域とのつながりの面から民間の学童は安心感がある。	
220	児童会館は誰でも出入り自由なので対応に不安がある。民間は専任の先生がいるので安心。	放課後児童健全育成事業を実施する上で、適切な子どもへの関わりや、地域とのつながりは必要不可欠であると考えており、児童会館においても、児童クラブ担当指導員を配置するほか、児童会館すべての職員による、きめ細かな目配りを行うことや、運営に地域の声を反映できるよう努めます。
221	児童会館は（専任）指導員がいない、春休み等の開館時間が親の始業時間より遅い等の不安が多い。子どもを生む環境だけではなく健全な教育のために学童保育も充実させてほしい。	

№	意見の概要	札幌市の考え方
222	<p>共同学童保育のある校区にミニ児をつくるのは納得できない。行政には留守家庭の児童の放課後の生活には何が必要かを再考してもらいたい。</p>	<p>ミニ児童会館の整備については、学校の児童数が一定規模以上であり、校区内に児童会館も民間児童育成会もない校区を優先的に進めています。放課後の居場所づくりにおける、行政サービスの地域格差解消のためにも、今後は民間児童育成会のある校区においても、整備条件が整い次第、順次整備を進めていきます。</p>
223	<p>児童会館より学童保育を選んだ。子どもを預けるには家庭の代わりとなる温かさが必要。児童会館での3年生以下しかみないというのはどのような基準なのか。もしミニ児童会館を計画するのであれば民間学童のないところに限ってほしい。ここにミニ児を作ると今まで築いてきた学童の存続にかかわる。留守家庭児童のために民間学童に助成金を増やし、ミニ児は留守家庭以外の子が集う場としてあれば良いと思う。ミニ児と学童が共存できる方向で考えてほしい。</p>	<p>ミニ児童会館の整備については、学校の児童数が一定規模以上であり、校区内に児童会館も民間児童育成会もない校区を優先的に進めています。放課後の居場所づくりにおける、行政サービスの地域格差解消のためにも、今後は民間児童育成会のある校区においても、整備条件が整い次第、順次整備を進めていきます。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っており、同一校区にミニ児童会館が整備された場合においても、助成要件を満たす民間児童育成会には、継続して助成していきたいと考えています。</p>
224	<p>全児童対策としての児童会館では留守家庭の子どもに対する十分なケアができないと思い、越境して他地区の学童保育を利用している。児童会館があればいいというのではなく、小学生が安全に健やかに過ごせるように予算を組んでください。</p>	<p>児童会館では、児童クラブに登録している子どもも一般利用の子どもも、分け隔てない指導を行っているところです。なお、児童クラブに登録している子どもに対しては一定の配慮を行うことで、「生活の場」としての機能が十分確保されるよう努めています。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っています。</p>
225	<p>児童会館に通わせようとしたが、館内の様子を見て、ここで良いのか疑問に思い、学童保育に通わせた。外遊びがあり、子どもも気に入って通っている。学童はとてもアットホームな感じでとても良いと思う。もっともっと学童を増やしてほしい。</p>	<p>児童会館では、児童クラブに登録している子どもも一般利用の子どもも、分け隔てない指導を行っているところです。なお、児童クラブに登録している子どもに対しては一定の配慮を行うことで、「生活の場」としての機能が十分確保されるよう努めています。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っています。</p>
226	<p>根本的に一般の子と留守家庭の子とは放課後のあり方が違う。学童の先生は信頼できる母親的存在。皆で食べる愛情たっぷりの手作りおやつや様々な活動。そんな子どもたちの安心できる居場所が存続し続けることを願う。地域に根ざした学童こそ必要。</p>	
227	<p>今子どもが通っている民間学童保育所は、勉強や遊び等を通して様々なことを教えてくれる。ミニ児童会館と違い16年生までみてくれる。学童保育の内容を知り、指導員が自立した生活ができるよう市の援助に努め、質の高い保育の提供を。体制の一本化のようなプランが正しいわけではない。</p>	
228	<p>放課後の居場所に学校の空き教室利用を案としていることに疑問や不安を感じる。学校という大きな箱に1日の半分以上を過ごすことを課して子どもたちは何を求めるのか。子ども2人を学童保育に通わせた経過があるが、学童保育に通う子どもは皆生き生きと成長している。このプランの主役である子どもの声は届いているのか。</p>	<p>本市の総合的な放課後対策においては、放課後子ども教室事業と放課後児童健全育成事業を一体的に実施しており、学習支援の充実や生活の場の確保に努めています。</p> <p>一方、民間児童育成会については、札幌市の放課後児童健全育成事業において一定の役割を果たしていることから、助成という形式で支援を行っています。</p>
229	<p>働く親にとってプランは必要不可欠。だが、学童保育所と違い、学校にそのまま残って過ごすのはどうか。学校生活の延長ということで開放感のない状態になるのではないか。昨今の状況を考えると、低学年のみならず高学年も、また質的にも良い保育体制を作っていくこと、その質を満たしている民間学童保育所にも同様のお金をかけることが必要。</p>	
230	<p>子どもの放課後の生活は親にとって心配のひとつ。学校の中で見てもらえるのも良いが、学童のようにのびのびと放課後を過ごせることが必要（学校の延長ではなく）。</p>	

4 1～3以外の意見

№	意見の概要
231	指導員がしっかりしている事、親同士のつながりがあることが大事。
232	老人ホームや障がいを持つ方の施設訪問など積極的に行ってほしい。少子化だからこそお年寄りとのふれあいや尊敬の念等忘れないでほしいことを、子どもたちに感じさせてあげてほしい。
233	放課後の居場所に望むことは、本来家庭で教えるべきことを少し手伝ってほしいということ。働いているとなかなか教えてあげられない。例えば、地域の協力を得て、調理に取り組み、一人暮らしのお年寄りにご馳走するなどすれば、本人の励みになり、社会貢献の第一歩につながるのでは。
234	地域の年配の方の力を借りて、昔遊びを取り入れてはどうか。
235	継続的に個々人の観察をしたり、つながりを持つ大人に見ていてほしい。
236	一度家に帰ってから児童会館に行くには遠すぎるため、学校建設予定地（空き地）に町内会が運営できるような建物を造ってもらえないのか。
—	プラン(案)への意見募集を保育園の保護者に対して実施していないのは何故か。保育園の保護者がこのプランにとって一番重要なのではないか。まちづくりセンターは高齢者しかいないのに配布していて、保育園に配布していないのはおかしい。